

「学ぶ防災」

～次世代に語り継ぐ震災の記憶と防災意識～



「学ぶ防災」とは

東日本大震災の影響で甚大な被害が出てしまった田老地区の現状を、防潮堤に上って「災禍の記録」や「後世への教訓」を伝えることでお客様に防災意識を高めていただく事を目的としています。



～宮古市田老地区～



	第一防潮堤	第二防潮堤	第三防潮堤
高さ	10m	10m	10m
長さ	1,350m	582m	501m
工期	S9～32年度	S37～40年度	S48～53年度

宮古市田老(旧田老町)と津波



明治29年6月15日

明治三陸大津波(M7.6) 津波水位 15m

昭和8年3月3日

昭和三陸大津波(M8.3) 津波水位 10m

昭和33年

最初の堤高10m超の防潮堤が完成。その後も増設を続ける

昭和54年

長さ2433m 高さ10m(海面から)の防潮堤が完成

平成23年3月11日

東日本大震災(M9.0) 津波遡上高 37.9m(田老小堀内漁港)



過去に幾度もの津波被害を受けながらも復興を遂げてきた地域だからこそ伝えられる事がある

田老が世界に誇る防潮堤の上から見る津波対策

自然の驚異を学ぶ



未来
未来へつなぐ



隅切り



ソーラーパネル



碁盤の目状に整備された街並

「田老観光ホテル」
宮古市では震災遺構として国の支
援を頂きながら残すことが決定。



被災した田老観光ホテル6Fから撮影した 震災津波映像(マスコミ未公開)の上映



未来
未来へつなぐ

※震災遺構工事着工後は別場所にて実施

2013年 従来の「学ぶ防災」+体験型教育学習



実際に体験することでさらなる防災意識の向上を

次世代へ語り継ぐ防災意識



実際の田老地区の避難道を歩き



防災に取り組んできた先人たちの教えを学び

未来
未来へつなぐ



未来
未来へつなぐ

次世代へと教訓を語り継いでいく

3. 11の震災による被害は私達に
多くの恐怖、苦しみ、哀しみを
与えました。

またいつの日かくるであろう
災害に向けてすべきこと。

「教育・訓練・伝承」

そして最も大切なことは
「自分で自分の命を守る意識」です。

いつ来るかわからない災害…。

最善の避難をしてください。

大切なあなたの命を守るために…。



三陸鉄道 北・南リアス線全線開通

東日本大震災の津波で大きな被害に遭った三陸鉄道は4月6日、最後まで不通となっていた北リアス線小本-田野畑間（10.5キロ）の運行を再開。南リアス線と合わせた107.6キロがすべて復旧し、開業30周年で再出発を果たしました。



来て

見て

皆様の
5支援

泊って

ありがとうございます。

食べて

買って